

「農業振興に向けた 多面的機能の発揮に関するセミナー」を開催

柏崎周辺農業水利事業所

平成29年3月15日(水)13:30～17:00に刈羽村生涯学習センター「ラピカ」において、柏崎周辺農業水利事業所と一般社団法人地域環境資源センターの主催で、「農業振興に向けた多面的機能の発揮に関するセミナー（第3回）」を開催しました。

本セミナーは、国営事業および関連事業により生み出された農業生産基盤が、有効に活用され、多面的機能支払等の各種施策と連携して、地域の農業振興や担い手の育成を図ることを目的として、平成26年度から実施しており、今回で3回目の開催となりました。当日は、柏崎市と刈羽村における多面的機能支払の活動組織の代表者約60名、関係自治体の他、パネリストとして品田宏夫刈羽村長や伊藤忠雄新潟大学名誉教授、(有)山波農場から山波剛代表取締役、北陸農政局から松井貞史多面的機能支払推進室長が出席しました。



進行役は太田信介氏
(元農林水産省 農村振興局長)



左から品田村長、伊藤名誉教授、山波代表取締役、松井室長

第一部 ワークショップ ～10年後の農業の姿 地域の姿～

今回のセミナーの目的の一つに、10年後に地域・農業について予測してもらい、現状のまま対策を打たなければどうなるかという視点から、危機感の共有を図ることがあります。これは、今までのセミナーを通して、参加者の多くが、現状のままでもなんとかなるといった楽観論や、遠い将来の集落イメージが想像しづらいという課題設定の難しさがあったことを踏まえて、近未来に訪れる課題について考えてもらうものです。当日は15人程度のグループを4つ（平場地域2グループ、中山間地域2グループ）に分けてワークショップを実施しました。

ワークショップでは各グループから「担い手がないので農業が衰退してしまう」「農業がしっかりしていないと集落活動が困難」等の意見が上がる中で、平場地域では大規模経営により稼げる農業が進むという回答があったのに対し、中山間地域のグループでは農業を続けることすら困難であるとの悲観的な予測が目立つ結果となりました。これらの課題に対してどのような対策が考えられるかについても話し合い、人の確保（営農者、集落活動への協力者）、耕作条件の改善が重要な課題であるとの

意見が大勢を占めました。また、女性役員からは地域特性を活かした高収益作物への転換や、6次産業化といった意見も出ており、活発な議論がなされました。



第二部 パネルディスカッション ～課題解決に向けたアドバイス～

ワークショップの後は、共有した課題の解決の参考となる事例や考え方について有識者でのパネルディスカッションを実施しました。

最初に松井室長から、多面的機能支払の広域化（集落連携）に取り組んでいる事例（福井県^{もんじゅ}農地・水・環境保全会、石川県^{ほつち}知瀉水土里ネットワーク、福井県宮川グリーンネットワーク）から、活動組織の広域化により、集落での事務手続きの簡素化や予算上のメリット等を説明いただきました。

品田村長からは、刈羽村での農業政策の方針についてご意見をいただきました。刈羽村の方針は、自ら稼ごうとする農業者の支援をしており、これからの農業は儲けることが重要。農業で儲けるためには耕作者ではなく経営者の視点が必要で、そのためには大規模化・集約化が必須とのご発言がありました。また、併せて販路確保も必要であり、例えば刈羽村では学校給食に出す野菜の栽培を村内の農業者と契約するなどの取組をしており、地産地消の促進にもつながっている。こうした方策を農業者からも是非提案してもらいたい、と参加者に呼びかけていました。

（有）山波農場は、柏崎市内の別俣地域という中山間地域で大規模営農をしている法人で、山波農場の経営理念は地域を守ることであり、中山間地域で耕作している農業者がリタイアしても、山波農場に引き継ぐことで、地域農業を継続することができるための保険として存在しているとの説明があり、特に中山間地域の活動組織の役員達は、山波氏がどのようにして地域と関わってきたかについて熱心に聞き入っていました。

最後に伊藤名誉教授から、新潟県上越市の事例から、農業を持続し、農村を支えていくために重要な要素について紹介いただきました。その要素とは「地域を動かすエンジン」を作ること、そのためにエンジンとなる“人”を「見つける、育てる、つなげる」ことが必要。その人を見つけた後は地域として支援をし「急がない、止まらない、無理しない」をキーワードに取り組みを継続するとよいのではないかとアドバイスをいただきました。

会場からも、活動組織の広域化を進める上で、地域愛や集落保全意識が低下をしないためにはどうすれば良いか等の質問があり、実りの多いセミナーとなりました。

柏崎刈羽地域の農業振興に向けて

今回のセミナー修了後に実施した事後アンケートには、セミナーを通じて自らの地域での危機感を感じたとの回答が多く、約3割の出席者からは、機会を見て新たな一歩を踏み出したいと回答いただき、セミナーの効果が伺えました。

また、今回のセミナーには、新潟大学の農学部から森井教授と学生2名（公務員への就職希望）も見学に来られ、地域農業の活性化に向けて議論する地域住民の意見に熱心に耳を傾けていました。当日取材に来られた新聞記者も同様で、「参加者が自らの地域で直面している課題について真剣に考え、活発に議論されており大変興味深いセミナーだと思う。」と熱心に取材されていました。

柏崎事業所では、今後も柏崎刈羽地域の更なる農業振興に向けて、ハード整備だけに留まらず、こうした取組を継続していきたいと考えております。



大勢の方にご参加いただきました



10年後の地域の課題が浮き彫りに・・・



パネリストの皆様から多くのアドバイスをいただきました



熱心に聴講する学生と（写真手前）森井教授、取材する記者（写真奥）